

授業科目		リハビリテーションの理論と実際	単位／時間	1／30時間
開講学科等		スポーツ健康学科	担当教員	和田侑也
授業の目的・ テーマ		医学的リハビリテーションとしての機能訓練を中心に、その考え方と実際について学習する。		
授業の到達目標		単なる機能回復ではなく、『人間らしく生きる権利の回復』や『自分らしく生きること』が重要で、そのために行われるすべての活動がリハビリテーションだということを習得する。		
授業の計画	1	リハビリテーションと障害	26	手と手指の機能
	2	リハビリテーション医学と医療	27	骨盤と股関節の機能
	3	障害の評価	28	膝関節の機能
	4	〃	29	足の機能
	5	〃	30	試験
	6	医学的リハビリテーション	31	
	7	〃	32	
	8	〃	33	
	9	・各疾患のリハビリテーション	34	
	10	五十肩	35	
	11	頸腕障害	36	
	12	腰痛	37	
	13	変形性膝関節症	38	
	14	変形性股関節症	39	
	15	大腿骨頸部骨折	40	
	16	スポーツ障害	41	
	17	その他	42	
	18	・運動の仕組み	43	
	19	関節と運動の力学	44	
	20	姿勢とその異常	45	
	21	運動路と感覚路	46	
	22	反射と随意反射	47	
	23	脊髄・体幹の機能	48	
	24	肩甲帯・肩の機能	49	
	25	肘と前腕の機能	50	
授業の方法		講義形式		
テキスト/参考文献		リハビリテーション医学		
評価の方法 や基準		出席状況、授業態度、期末筆記試験により総合的に判断		
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する ○				
実務経験		接骨院に勤務し、プロ選手やアスリート・全国常連校の大学選手のサポート。2017年より独立開業。		
実務経験の 活かし方		クラブ活動やサークル、スポーツ施設などでのリハビリテーション。		
履修上の 注意事項		筆記用具。		

授業科目	スポーツリハビリテーション		単位／時間	1／30時間
開講学科等	スポーツ健康学科		担当教員	和田侑也
授業の目的・ テーマ	スポーツ選手の受傷後の機能回復をもとに、競技復帰までの段階的リハビリテーション及びプログラミングについて学ぶ。			
授業の 到達目標	患部の治療だけでなく、そのスポーツを遂行するために必要な身体機能やスポーツ動作の改善を図ります。そのために必要なリハビリプログラムを作成し、競技特性に応じたトレーニング等を習得する。			
授業の計画	1	総説（スポーツリハビリテーション）	26	〃
	2	野球肩とそのリハビリテーション	27	〃
	3	〃	28	スポーツ用装具
	4	〃	29	〃
	5	腰痛症とそのリハビリテーション	30	試験
	6	〃	31	
	7	〃	32	
	8	膝靱帯損傷とそのリハビリテーション	33	
	9	〃	34	
	10	〃	35	
	11	足関節捻挫とそのリハビリテーション	36	
	12	〃	37	
	13	〃	38	
	14	肉離れとそのリハビリテーション	39	
	15	〃	40	
	16	〃	41	
	17	鼠径部痛症候群とそのリハビリテーション	42	
	18	〃	43	
	19	〃	44	
	20	第5中足骨疲労骨折とそのリハビリテーション	45	
	21	〃	46	
	22	〃	47	
	23	トレーニング法の実際	48	
	24	〃	49	
	25	〃	50	
授業の方法	講義形式			
テキスト/参考文献	アスレティックリハビリテーションガイド／必要に応じて紹介する予定			
評価の方法 や基準	出席状況、授業態度、期末筆記試験により総合的に評価する			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する ○				
実務経験	接骨院に勤務し、プロ選手やアスリート・全国常連校の大学選手のサポートを経歴。2017年より独立開業。			
実務経験の 活かし方	クラブ活動やサークル、スポーツ施設などでのリハビリテーション。			
履修上の 注意事項	筆記用具			

授業科目	機能解剖学		単位／時間	60時間
開講学科等	スポーツ健康学科		担当教員	戸梶慎也
授業の目的・テーマ	人体を機能的側面から捉え、骨・関節・筋についての働きについて理解する。身体の機能を理解して、トレーニング実践時に効果的な方法を選択して、提供できるようにする			
授業の到達目標	筋の起始・停止から、運動の成り立ちについて説明することができる。 トレーニングを指導する際に、身体の機能を理解した上で、正しく効果的な指導ができるようになる。			
授業の計画	1	機能解剖学とは	31	血液の構成要素と機能（１）
	2	起始・停止について（１）	32	血液の構成要素と機能（２）
	3	起始・停止について（２）	33	リンパ系の解剖と免疫機能（１）
	4	関節の名称（１）	34	リンパ系の解剖と免疫機能（２）
	5	関節の名称（２）	35	中枢神経系と末梢神経系の構造（１）
	6	関節の名称（３）	36	中枢神経系と末梢神経系の構造（２）
	7	骨の分類と構造（１）	37	神経伝達のメカニズムと神経筋接合部（１）
	8	骨の分類と構造（２）	38	神経伝達のメカニズムと神経筋接合部（２）
	9	関節の解剖学と運動（１）	39	神経系の発達と修復（１）
	10	関節の解剖学と運動（２）	40	神経系の発達と修復（２）
	11	骨格系の発育と成長（１）	41	感覚器の構造と感覚伝達（１）
	12	骨格系の発育と成長（２）	42	感覚器の構造と感覚伝達（２）
	13	筋肉の分類と構造（１）	43	内分泌腺とホルモンの分泌（１）
	14	筋肉の分類と構造（２）	44	内分泌腺とホルモンの分泌（２）
	15	脊髄・体幹の機能（１）	45	内分泌系と代謝調節（１）
	16	脊髄・体幹の機能（２）	46	内分泌系と代謝調節（２）
	17	肩甲帯・肩の機能（１）	47	腎・泌尿器系スポーツ障害：解剖と生理（１）
	18	肩甲帯・肩の機能（２）	48	腎・泌尿器系スポーツ障害：解剖と生理（２）
	19	肘と前腕の機能（１）	49	解剖学的知識の臨床応用としての重要性（１）
	20	肘と前腕の機能（２）	50	解剖学的知識の臨床応用としての重要性（２）
	21	膝関節の機能（１）	51	解剖学的異常とその影響（１）
	22	膝関節の機能（２）	52	解剖学的異常とその影響（２）
	23	姿勢とその異常	53	臨床診断における解剖学的知識の役割（１）
	24	筋肉の収縮メカニズムと制御（１）	54	臨床診断における解剖学的知識の役割（２）
	25	筋肉の収縮メカニズムと制御（２）	55	複数の解剖学的システムの相互作用と関連性（１）
	26	筋肉の生理学的機能（１）	56	複数の解剖学的システムの相互作用と関連性（２）
	27	筋肉の生理学的機能（２）	57	解剖学的変化と年齢による影響（１）
	28	心臓と血管の構造と機能（１）	58	解剖学的変化と年齢による影響（２）
	29	心臓と血管の構造と機能（２）	59	期末試験対策
	30	中間試験	60	期末試験
授業の方法	講義形式			
テキスト	配布資料			
参考文献				
評価の方法や基準	出席状況、授業態度、試験により総合的に評価する			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	急性期病院／インストラクター			
実務経験の活かし方	ケーススタディとして思考・方法について説明し、現場で活用できる知識を身につける。			
履修上の注意事項	特になし			

授業科目		スポーツ栄養学		単位／時間	2/30時間
開講学科等		スポーツ健康学科		担当教員	大坪豊寿
授業の目的・テーマ		アスリートのためにトータルコンディショニング（栄養学）の学び、適切なサポートを習得する			
授業の到達目標		対象者に対してより良いサポート、助言ができる。			
授業の計画	1	トータルコンディショニング	26	プレゼンテーション	
	2	トータルコンディショニング	27	プレゼンテーション	
	3	栄養学観点から考える体調管理	28	プレゼンテーション	
	4	栄養学観点から考える体調管理	29	予備	
	5	脱水予防のための評価と対策	30	筆記試験	
	6	高地トレーニング・暑熱環境下	31		
	7	栄養摂取によるリカバリー	32		
	8	栄養摂取によるリカバリー	33		
	9	ジュニアアスリートのために効果的な栄養	34		
	10	ジュニアアスリートのために効果的な栄養	35		
	11	遠征時のサポート（国内・海外）	36		
	12	プレゼン内容案	37		
	13	プレゼンテーション作成	38		
	14	プレゼンテーション作成	39		
	15	プレゼンテーション作成	40		
	16	プレゼンテーション作成	41		
	17	睡眠	42		
	18	女性アスリートにおける栄養素等の摂取法	43		
	19	女性アスリートにおける栄養素等の摂取法	44		
	20	パラアスリートの栄養	45		
	21	プレゼンテーション	46		
	22	プレゼンテーション	47		
	23	プレゼンテーション	48		
	24	プレゼンテーション	49		
	25	プレゼンテーション	50		
授業の方法		講義、演習			
テキスト		無し			
参考文献		アスリートのためにトータルコンディショニングガイドライン			
評価の方法や基準		試験、提出物、出席率、授業態度、プレゼンテーション			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					○
実務経験		病院・大学・専門学校・各スポーツ競技団体・高知県スポーツ科学センター			
実務経験の活かし方		病院での病態に関する知識やスポーツ現場での栄養指導を活かして授業を進める。			
履修上の注意事項		筆記用具持参			

授業科目	トレーニング論Ⅱ		単位／時間	1/30
開講学科等	スポーツ健康学科		担当教員	濱田 滯
授業の目的・テーマ	1年時に得た知識をさらに高め、新たな知識、技術の習得を目指す。 トレーニング指導に必要な知識、技術の習得。			
授業の到達目標	それぞれのTR理論の説明、実施ができる。 理論をもとにトレーニングの指導ができる。			
授業の計画	1	TR論Ⅰの振り返り	26	トレーニングと外傷・障害
	2	トレーニングの基礎	27	トレーニングと外傷・障害
	3	トレーニングの基礎	28	振り返り
	4	エネルギー供給系	29	試験対策
	5	エネルギー供給系	30	試験
	6	レジスタンスTRの理論	31	
	7	レジスタンスTRの理論	32	
	8	持久力TRの理論	33	
	9	持久力TRの理論	34	
	10	プライオメトリクスの理論	35	
	11	スピードとは	36	
	12	スピードとは	37	
	13	高齢者の身体的・機能的特徴	38	
	14	高齢者の身体的・機能的特徴	39	
	15	チームへのトレーニング指導	40	
	16	チームへのトレーニング指導	41	
	17	育成年代の身体的・機能的特徴	42	
	18	育成年代の身体的・機能的特徴	43	
	19	ウォーミングアップとクールダウン	44	
	20	ウォーミングアップとクールダウン	45	
	21	ストレッチの医科学	46	
	22	ストレッチの医科学	47	
	23	ストレッチの医科学	48	
	24	コンディショニングとリコンディショニング	49	
	25	コンディショニングとリコンディショニング	50	
授業の方法	プリント・資料配布			
テキスト/参考文献	日本スポーツ協会公認ATテキスト⑥『予防とコンディショニング』を中心に必要に応じて他の文献も使用。			
評価の方法や基準	出席、授業態度、試験			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	高校野球、プロ野球独立リーグ、レスリング日本代表、パーソナルジム			
実務経験の活かし方	現場での経験をもとに知識と照らし合わせながら伝える			
履修上の注意事項				

授業科目	トレーニング計画		単位／時間	1/30
開講学科等	スポーツ健康学科		担当教員	濱田 滯
授業の目的・テーマ	一般の方やアスリート、ジュニア～シニアなどへのトレーニングの計画を立て実際に指導が行えるようになる			
授業の到達目標	・計画に必要な知識を習得する ・対象者の違いや特性を理解する ・計画したものを説明、実施することができる			
授業の計画	1	ガイダンス(到達目標・概要・授業計画について)	26	内科的疾患に対するトレーニング
	2	PDCAサイクル	27	内科的疾患に対するトレーニング
	3	ピリオダイゼーション①	28	内科的疾患に対するトレーニング
	4	ピリオダイゼーション②	29	試験説明と対策
	5	ピリオダイゼーション③	30	試験
	6	ピリオダイゼーション④	31	
	7	ピーキングとテーパリング①	32	
	8	ピーキングとテーパリング②	33	
	9	ピーキングとテーパリング③	34	
	10	フィットネス疲労理論①	35	
	11	フィットネス疲労理論②	36	
	12	ウォーミングアップとクールダウンの計画・実践	37	
	13	ウォーミングアップとクールダウンの計画・実践	38	
	14	ウォーミングアップとクールダウンの計画・実践	39	
	15	試験	40	
	16	前半の振り返りと後半の流れ	41	
	17	アスリートに対するTR計画①	42	
	18	アスリートに対するTR計画②	43	
	19	アスリートに対するTR計画③	44	
	20	ジュニア期に対するTR計画①	45	
	21	ジュニア期に対するTR計画②	46	
	22	女性に対するTR計画①	47	
	23	女性に対するTR計画②	48	
	24	高齢者に対するTR計画①	49	
	25	高齢者に対するTR計画②	50	
授業の方法	プリント・資料配布			
テキスト/参考文献	必要に応じて使用			
評価の方法や基準	出席、授業態度、試験			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	高校野球、プロ野球独立リーグ、レスリング日本代表、パーソナルジム			
実務経験の活かし方	現場での経験をもとに知識と照らし合わせながら伝える			
履修上の注意事項				

授業科目	スポーツ医学Ⅱ（内科）		単位／時間	30時間
開講学科等	スポーツ健康学科		担当教員	川上照彦
授業の目的・テーマ	内科系スポーツ障害の発症機序、病態、スポーツ時の薬の影響を理解し、スポーツ医学の重要性を知ると共に、そのスポーツ障害の予防や応急処置、ドーピングの現状、アンチドーピングの取り組みを学ぶ。			
授業の到達目標	内科系スポーツ障害の発生機序、病態、薬の体への影響を理解し、それらスポーツ障害の予防や応急処置、アンチドーピングの取り組みを説明し、実際に行うことができる。			
授業の計画	1	内科系スポーツ障害(総論)	26	オーバートレーニング症候群の病態
	2	脳神経、循環器系の解剖と生理	27	オーバートレーニング症候群の予防と治療
	3	突然死:脳出血、くも膜下出血の病態と予防、応急処置	28	スポーツと薬
	4	突然死:急性冠障害の病態と予防、応急処置	29	ドーピングの現状とアンチドーピングの取り組み
	5	突然死:心臓振盪の病態と予防、応急処置	30	まとめ
	6	突然死:大動脈破裂の病態と予防、応急処置	31	
	7	血管迷走神経反射:病態とスポーツ現場における問題	32	
	8	血管迷走神経反射:予防と応急処置	33	
	9	環境によるスポーツ障害(総論)	34	
	10	熱中症:現状と病態	35	
	11	熱中症:予防と応急処置	36	
	12	低体温症、高山病:病態と予防、応急処置	37	
	13	腎・泌尿器系スポーツ障害:解剖と生理	38	
	14	急性腎不全(骨格筋融解症):病態と予防、応急処置	39	
	15	消化器系スポーツ障害:解剖と生理	40	
	16	血便、運動時側腹筋痛:病態と予防、応急処置	41	
	17	呼吸器系スポーツ障害:解剖と生理	42	
	18	運動における免疫応答の理解	43	
	19	運動誘発性喘息の病態と予防、応急処置	44	
	20	運動誘発アナフィラキシー:病態と予防、応急処置	45	
	21	過呼吸症候群の病態と予防、応急処置	46	
	22	内科系スポーツ慢性障害(総論)	47	
	23	貧血(鉄欠乏性貧血)の病態	48	
	24	貧血(鉄欠乏性貧血)の予防と治療	49	
	25	高尿酸血症、痛風の病態と予防、治療	50	
授業の方法	スライド、資料を使った講義形式			
テキスト/参考文献	講義内容を適宜資料として配布する。			
評価の方法や基準	試験（80%）、発表、ディスカッションへの参加（10%）、授業態度（10%）にて評価する。			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	スポーツドクター、整形外科医として実際の臨床現場で治療を行うと共に、スポーツ団体のメディカルチェック等を行ってきた。			
実務経験の活かし方	臨床現場で得られた実際の経験を紹介し、学生の勉強意欲を高め、知識の習得に生かしたい。			
履修上の注意事項	配布された資料で十分とするのではなく、積極的に質問すると共に自学自習し、講義内容の理解を深めること			

授業科目		スポーツビジネス論		単位／時間		30時間	
開講学科等		スポーツ健康学科		担当教員		前田和範	
授業の目的・テーマ		1年次のスポーツビジネスの基礎知識をもとより、本講義ではスポーツを取り巻く環境を理解することを中心に講義を進めていく。 後半にはスポーツビジネスとマーケティングの関わりについて基礎的な理解を深めていく					
授業の到達目標		スポーツ経営学の基礎を理解することができる スポーツにおけるマネジメントの重要性について理解することが出来る 様々な経営機能（戦略。マーケティング等）が、スポーツ組織においてどのように活かされているのかを習得できる 実際のスポーツの減少を経営学の視点から分析できるようになる					
授業の計画	1	オリエンテーション	26	スポーツマーケティングとは（2）			
	2	スポーツとは	27	スポーツ振興施策（1）			
	3	スポーツをめぐる社会的背景(1)	28	スポーツ振興施策（2）			
	4	スポーツをめぐる社会的背景(2)	29	期末テスト（1）			
	5	スポーツ組織の顧客・経営資源(1)	30	期末テスト（2）			
	6	スポーツ組織の顧客・経営資源(2)	31				
	7	スポーツ組織の製品コンセプト(1)	32				
	8	スポーツ組織の製品コンセプト(2)	33				
	9	スポーツ組織のマネジメント(1)	34				
	10	スポーツ組織のマネジメント(2)	35				
	11	スポーツリーグのマネジメント(1)	36				
	12	スポーツリーグのマネジメント(2)	37				
	13	スポーツチームのマネジメント(1)	38				
	14	スポーツチームのマネジメント(2)	39				
	15	スポーツ組織のスタッフ:人的資源管理(1)	40				
	16	スポーツ組織のスタッフ:人的資源管理(2)	41				
	17	スポーツ組織の経営戦略(1)	42				
	18	スポーツ組織の経営戦略(1)	43				
	19	スポーツツーリズム(1)	44				
	20	スポーツツーリズム(2)	45				
	21	メガスポーツイベントのマネジメント(1)	46				
	22	メガスポーツイベントのマネジメント(2)	47				
	23	総合型地域スポーツクラブのマネジメント(1)	48				
	24	総合型地域スポーツクラブのマネジメント(2)	49				
	25	スポーツマーケティングとは(1)	50				
授業の方法		講義					
テキスト/参考文献							
評価の方法や基準		試験、提出課題、授業態度、出席率					
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する						○	
実務経験		企業スポーツチームの営業として勤務（5年）スポーツマネジメント分野博士号取得					
実務経験の活かし方		企業で感じたスポーツビジネスの可能性を実例を交えて学生に伝える					
履修上の注意事項		筆記用具					

授業科目		スポーツツーリズム		単位／時間		30時間	
開講学科等		スポーツ健康学科		担当教員		前田和範	
授業の目的・テーマ		スポーツビジネスの基礎知識として、本講義ではスポーツイベントと観光（ツーリズム）を中心に講義を進めていく。 後半にはスポーツツーリズムに関する調査を経験する					
授業の到達目標		スポーツツーリズムの基礎を理解することができる スポーツにおける観光（ツーリズム）の重要について理解することが出来る 様々なスポーツイベントが、地域においてどのような効果を期待されているのかを説明できる 実際のスポーツイベントからツーリズムの視点から調査分析できるようになる					
授業の計画	1	オリエンテーション	26				
	2	スポーツツーリズムとは	27				
	3	メガスポーツイベントによるスポーツツーリズム(1)	28				
	4	メガスポーツイベントによるスポーツツーリズム(2)	29				
	5	自然資源を活用したスポーツツーリズム(1)	30				
	6	自然資源を活用したスポーツツーリズム(2)	31				
	7	スポーツデスティネーション(1)	32				
	8	スポーツデスティネーション(2)	33				
	9	スポーツイベント(1)	34				
	10	スポーツイベント(2)	35				
	11	スポーツツーリズムのデータと調査(1)	36				
	12	スポーツツーリズムのデータと調査(1)	37				
	13	調整中	38				
	14	調整中	39				
	15	期末テスト	40				
	16		41				
	17		42				
	18		43				
	19		44				
	20		45				
	21		46				
	22		47				
	23		48				
	24		49				
	25		50				
授業の方法		講義					
テキスト/参考文献							
評価の方法や基準		試験、提出課題、授業態度、出席率					
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する						○	
実務経験		企業スポーツチームの営業として勤務（5年）スポーツマネジメント分野博士号取得 高知県スポーツコミッション理事					
実務経験の活かし方		高知県スポーツコミッションの活動実例を交えて高知県のイベントをもとに授業を進める					
履修上の注意事項		筆記用具					

授業科目	アスレティックトレーニング		単位／時間	30時間
開講学科等	スポーツ健康学科		担当教員	濱田 滯
授業の目的 ・テーマ	アスレティックトレーニングを理解し、それに付随する知識や技術を習得する			
授業の 到達目標	・アスレティックトレーニングとはなにか説明できる ・コンディショニング方法について理解する			
授 業 の 計 画	1	ガイダンス・トレーナーの役割	26	スポーツマッサージ（実技）
	2	アスレティックトレーニングとは	27	スポーツマッサージ（実技）
	3	怪我の評価(首)	28	スポーツマッサージ（実技）
	4	怪我の評価(首)	29	試験対策
	5	怪我の評価(肩)	30	試験
	6	怪我の評価(肩)	31	
	7	怪我の評価(肘)	32	
	8	怪我の評価(肘)	33	
	9	怪我の評価(手首)	34	
	10	怪我の評価(手首)	35	
	11	怪我の評価(腰)	36	
	12	怪我の評価(腰)	37	
	13	怪我の評価(膝)	38	
	14	怪我の評価(膝)	39	
	15	頭部外傷に対する応急処置	40	
	16	頭部外傷に対する応急処置	41	
	17	その他外傷に対する応急処置	42	
	18	その他外傷に対する応急処置	43	
	19	実際のアスレティックトレーニングの例	44	
	20	アスレティックトレーニングの計画	45	
	21	アスレティックトレーニングの計画	46	
	22	アスレティックトレーニングの実践	47	
	23	アスレティックトレーニングの実践	48	
	24	スポーツマッサージ(座学)	49	
	25	スポーツマッサージ(実技)	50	
授業の方法	プリント・資料配布			
テキスト/参考文献	必要に応じて使用			
評価の方法 や基準	出席、授業態度、試験			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	高校野球、プロ野球独立リーグ、レスリング日本代表、パーソナルジム			
実務経験の 活かし方	現場での経験をもとに知識と照らし合わせながら伝える			
履修上の 注意事項				

授業科目		トレーニング実習Ⅱ		単位／時間	2/60
開講学科等		スポーツ健康学科		担当教員	濱田 滯
授業の目的・テーマ		実技を通じて様々なトレーニング法や指導法を習得			
授業の到達目標		トレーニングの知識、指導法、補助法を習得し自身が正しいフォームで行えるようになる。 リスク管理を把握する。			
授業の計画	1	授業の注意点、説明	31	スミスマシンの使用法	
	2	フリーウエイト概論	32	チェストプレスの使用方法	
	3	フリーウエイト概論	33	全身持久力向上のためのトレーニング	
	4	フリーウエイトの効果、目的、リスク管理	34	全身持久力向上のためのトレーニング	
	5	ベンチプレスの理論	35	筋持久力向上のためのトレーニング	
	6	ベンチプレスの補助法	36	筋持久力向上のためのトレーニング	
	7	ベンチプレスの実践と指導	37	オリンピックリフティング	
	8	ベンチプレスの実践と指導	38	オリンピックリフティング	
	9	スクワットの理論	39	オリンピックリフティング	
	10	スクワットの補助法	40	オリンピックリフティング	
	11	スクワットの実践と指導	41	オリンピックリフティング	
	12	スクワットの実践と指導	42	ウォーミングアップの指導	
	13	スクワットの実践と指導	43	ウォーミングアップの指導	
	14	スクワットの実践と指導	44	クールダウンの指導	
	15	スクワットの実践と指導	45	クールダウンの指導	
	16	デッドリフトの理論	46	モビリティトレーニング	
	17	デッドリフトの補助法	47	モビリティトレーニング	
	18	デッドリフトの実践と指導	48	ファンクショナルトレーニング	
	19	デッドリフトの実践と指導	49	ファンクショナルトレーニング	
	20	デッドリフトの実践と指導	50	ファンクショナルトレーニング	
	21	スピード向上のためのトレーニング	51	呼吸トレーニング	
	22	内科的疾患に対するトレーニング	52	呼吸トレーニング	
	23	内科的疾患に対するトレーニング	53	実技の指導演習	
	24	ダンベルを使用したトレーニング	54	実技の指導演習	
	25	ダンベルを使用したトレーニング	55	実技の指導演習	
26 マシンの使用法と実践・指導			56	実技の指導演習	
27 マシンの使用法と実践・指導			57	試験対策	
28 マシンの使用法と実践・指導			58	試験	
29 試験対策			59	試験	
30 試験			60	試験	
授業の方法		プリント・資料配布			
テキスト/参考文献		日本スポーツ協会公認ATテキスト⑥『予防とコンディショニング』を中心に必要に応じて他の文献			
評価の方法や基準		出席、授業態度、試験			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					○
実務経験	高校野球、プロ野球独立リーグ、レスリング日本代表、パーソナルジム				
実務経験の活かし方	現場での経験をもとに知識と照らし合わせながら伝える				
履修上の注意事項					

授業科目	動作分析	単位／時間	30時間
開講学科等	スポーツ健康学科	担当教員	濱田 滯
授業の目的・テーマ	動作分析にあたり、評価法、観察力、実践力を獲得する		
授業の到達目標	・身体評価を正しく行える、各スポーツの特性を理解する。		
授業の計画	1 ガイダンス(到達目標・概要・授業計画について	26	〃
	2 評価の目的・意義	27	〃
	3 機能評価のプロセス	28	〃
	4 HOPS	29	振り返り・質疑応答
	5 〃	30	テスト
	6 アライメントの評価	31	
	7 ROM検査	32	
	8 〃	33	
	9 〃	34	
	10 MMT	35	
	11 〃	36	
	12 〃	37	
	13 フィールドテストの方法	38	
	14 〃	39	
	15 テスト	40	
	16 前半振り返り	41	
	17 動作分析の際の意義と注意	42	
	18 歩行の動作分析	43	
	19 〃	44	
	20 走動作の分析	45	
	21 〃 てん	46	
	22 野球の動作分析	47	
	23	48	
	24	49	
	25 その他スポーツの動作分析	50	
授業の方法	講義・実技		
テキスト/参考文献			
評価の方法や基準			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する			○
実務経験	高校野球・バスケ、プロ野球独立リーグ球団、レスリング日本代表合宿・U17トレーナー		
実務経験の活かし方	現場で得た知識や経験を交えながら指導していく		
履修上の注意事項			

授業科目	ヘルスケアITの理論と実際		単位／時間	30時間
開講学科等	スポーツ健康学科		担当教員	コガソフトウェア
授業の目的・テーマ	スポーツ健康分野でのヘルスケアITの基本理論を理解する。 スポーツ医学やフィットネス管理における情報システムの設計と実装に必要なスキルを身につける。 ヘルスケアデータの管理、安全性、倫理的な考慮事項について学ぶ。 現代のスポーツ健康分野でのITの役割を理解し、問題解決能力を向上させる。			
授業の到達目標	ヘルスケアITの基本理論を説明できる スポーツに用いられているヘルスケアIT機器の紹介ができる スポーツ界においてIT技術がどのように貢献しているのか説明できる			
授業の計画	1	ガイダンス(到達目標・概要・授業計画について)	26	スポーツ健康学におけるITの課題と将来の展望
	2	スポーツ健康におけるヘルスケアITの基礎	27	データ統合と相互運用性の課題
	3	スポーツ健康とヘルスケアITの接点	28	スポーツ健康分野でのITの将来の方向性と課題
	4	データとスポーツ健康管理の重要性	29	
	5	歪み測定機器を活用したヘルスケアITの理論(1)	30	テスト
	6	歪み測定機器を活用したヘルスケアITの理論(2)	31	
	7	歪み測定機器を活用したヘルスケアITの実際(1)	32	
	8	歪み測定機器を活用したヘルスケアITの実際(2)	33	
	9	歪み測定機器をもとにしたフィードバック	34	
	10	スポーツ選手の為の特別な情報管理	35	
	11	スポーツ医学におけるデータ収集と解析	36	
	12	パフォーマンスデータの収集と解析方法(1)	37	
	13	パフォーマンスデータの収集と解析方法(2)	38	
	14	バイオメカニクスデータと生理学的データの統合	39	
	15	スポーツフィットネス管理のためのITシステム(1)	40	
	16	スポーツフィットネス管理のためのITシステム(2)	41	
	17	フィットネスプログラムの管理とモニタリングシステム	42	
	18	パフォーマンス向上を目指すテクノロジーの活用(1)	43	
	19	パフォーマンス向上を目指すテクノロジーの活用(2)	44	
	20	ヘルスケアITのセキュリティとプライバシー	45	
	21	スポーツ選手の個人情報保護とデータセキュリティ	46	
	22	健康情報の倫理的な管理と法的な規制	47	
	23	新技術とスポーツ健康管理	48	
	24	モバイルアプリケーションとウェアラブルデバイスの活用(1)	49	
	25	モバイルアプリケーションとウェアラブルデバイスの活用(2)	50	
授業の方法	講義・実技			
テキスト/参考文献				
評価の方法や基準	授業態度、テスト			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	関西医科大学や日本ハムなどヘルスケアDXシステムを開発			
実務経験の活かし方	現場での活用事例などを交えながら、学生諸君の活躍の場が多くあることを知ってもらう			
履修上の注意事項	筆記用具			

授業科目	イベントプランニング		単位／時間	30時間
開講学科等	スポーツ健康学科		担当教員	奥 正孝
授業の目的・テーマ	スポーツイベントの企画、運営、および管理に必要なスキルと知識を学びます。スポーツイベントの成功のために必要な戦略立案や実施の手法を理解し、現場での実践的な経験を通じて学生の能力を向上させます。			
授業の到達目標	スポーツイベントの企画と運営に関する基本的な理解を深める。 イベントマネジメントの戦略と実践に必要なスキルを身につける。 現代のスポーツイベント市場の動向と課題を理解し、解決策を考える能力を養う。 チームワークやリーダーシップなどのソフトスキルを強化する。			
授業の計画	1	ガイダンス(到達目標・概要・授業計画について)	26	イベント評価と改善
	2	スポーツイベントの概要	27	成果の評価とフィードバックの収集
	3	スポーツイベントの分類	28	次回イベントの改善計画
	4	スポーツイベントの定義と種類	29	プレゼン発表
	5	イベント規模と目的による分類	30	テスト
	6	イベント企画の基礎	31	
	7	イベントの目的設定と目標の立て方	32	
	8	イベントプランニングの基本ステップ(1)	33	
	9	イベントプランニングの基本ステップ(2)	34	
	10	イベントの予算管理	35	
	11	収入と費用の見積もり	36	
	12	スポンサーシップと資金調達の戦略(1)	37	
	13	スポンサーシップと資金調達の戦略(2)	38	
	14	マーケティングと広報戦略(1)	39	
	15	マーケティングと広報戦略(2)	40	
	16	イベントのブランディングとプロモーション(1)	41	
	17	イベントのブランディングとプロモーション(2)	42	
	18	ソーシャルメディアとデジタルマーケティングの活用	43	
	19	イベント運営と実施	44	
	20	プロジェクトマネジメントとスケジュール管理	45	
	21	チームの役割と責任の分担(1)	46	
	22	チームの役割と責任の分担(2)	47	
	23	リスク管理と安全対策	48	
	24	イベント中のリスク評価と対策	49	
	25	緊急事態対応の計画と訓練	50	
授業の方法	講義・実技			
テキスト/参考文献				
評価の方法や基準	授業態度、テスト			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	吉本興業イベントプロデューサーとして勤務 大阪リゾート&スポーツ専門学校でイベントプランニングの授業を担当			
実務経験の活かし方	イベント会社としての実務経験と専門学校での授業経験をもとに理論と実践をリアルに伝えたい			
履修上の注意事項	筆記用具			

授業科目		スポーツマーケティング		単位／時間	30時間
開講学科等		スポーツ健康学科		担当教員	前田和範
授業の目的・テーマ		スポーツ産業におけるマーケティングの基本理論と実践を学びます。スポーツ製品、イベント、チーム、選手などのマーケティング戦略を探究し、現代のスポーツマーケットで成功するためのスキルを開発します。			
授業の到達目標		スポーツ産業の特性を理解し、そのマーケティングの重要性を認識する。 スポーツ製品やサービスのブランディング、プロモーション、販売促進に関する戦略を習得する。 スポーツ団体、チーム、選手のマーケティングにおける成功事例を分析し、応用する能力を身につける。 デジタルマーケティングやソーシャルメディアの活用など、新たなマーケティング手法を学ぶ。			
授業の計画	1	オリエンテーション	26	スポーツマーケティングの将来展望	
	2	スポーツマーケティングの基礎（１）	27	技術革新とスポーツ産業のマーケティングへの影響	
	3	スポーツマーケティングの基礎（２）	28	持続可能性とエシカルマーケティングの重要性	
	4	スポーツ産業の特性と市場の動向	29	期末テスト（１）	
	5	スポーツマーケティングの基本概念と枠組み	30	期末テスト（２）	
	6	スポーツブランディング（１）	31		
	7	スポーツブランディング（２）	32		
	8	スポーツ製品やサービスのブランド戦略（１）	33		
	9	スポーツ製品やサービスのブランド戦略（２）	34		
	10	ブランド価値の構築と維持	35		
	11	スポーツイベントのマーケティング	36		
	12	スポーツイベントのプロモーションと広告戦略	37		
	13	チケット販売促進と観客エンゲージメント（１）	38		
	14	チケット販売促進と観客エンゲージメント（２）	39		
	15	スポーツ選手やチームのマーケティング	40		
	16	選手やチームのパーソナルブランディング	41		
	17	スポンサーシップと広告契約の管理（１）	42		
	18	スポンサーシップと広告契約の管理（２）	43		
	19	デジタルマーケティングとスポーツ（１）	44		
	20	デジタルマーケティングとスポーツ（２）	45		
	21	ソーシャルメディアの活用とコンテンツ戦略	46		
	22	データ分析とマーケティング効果の測定	47		
	23	スポーツマーケティングの国際展開	48		
	24	グローバル市場での戦略と挑戦	49		
	25	文化的な違いと地域特性の考慮	50		
授業の方法		講義			
テキスト/参考文献					
評価の方法や基準		試験、提出課題、授業態度、出席率			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する					○
実務経験		企業スポーツチームの営業として勤務（5年）スポーツマネジメント分野博士号取得			
実務経験の活かし方		企業で感じたスポーツビジネスの可能性を実例を交えて学生に伝える			
履修上の注意事項		筆記用具			

授業科目	調整療法Ⅱ		単位／時間	30時間
開講学科等	スポーツ健康		担当教員	大津正久
授業の目的・テーマ	調整療法におけるテクニカルコースの内容の定着及び自己の施術スキル向上とアドバンス資格の取得を目標とする。			
授業の到達目標	クライアントに対する指導及び施術スキルの向上と資格取得を目指す。			
授業の計画	1	オリエンテーション 調整療法アドバンスの解説	26	前腕屈筋群伸長法実技(2)
	2	ベーシックコースの振り返り 上半身(1)	27	上腕二頭筋・前腕屈筋群伸長法実技 (1)
	3	ベーシックコースの振り返り 上半身(2)	28	上腕二頭筋・前腕屈筋群伸長法実技 (2)
	4	ベーシックコースの振り返り 上半身(3)	29	伸長法アドバンス実技 全身
	5	ベーシックコースの振り返り 上半身(4)	30	実技試験
	6	ベーシックコースの振り返り 体幹	31	
	7	ベーシックコースの振り返り 下半身(1)	32	
	8	ベーシックコースの振り返り 下半身(2)	33	
	9	ベーシックコースの振り返り 下半身(3)	34	
	10	ベーシックコースの振り返り 下半身(4)	35	
	11	伸長法ベーシック実技 全身(1)	36	
	12	伸長法ベーシック実技 全身(2)	37	
	13	伸長法ベーシック実技 全身(3)	38	
	14	下腿部筋の伸張法(ヒラメ筋)	39	
	15	下腿部筋の伸張法(腓骨筋)	40	
	16	下腿部筋の伸張法(後脛骨筋)	41	
	17	下腿部筋の伸張法(腓腹筋)	42	
	18	下腿部筋の伸張法(前脛骨筋)	43	
	19	前腕屈筋群・指屈筋(1)	44	
	20	前腕屈筋群・指屈筋(2)	45	
	21	上腕二頭筋・前腕屈筋群(1)	46	
	22	上腕二頭筋・前腕屈筋群(2)	47	
	23	下腿部筋の伸長法実技(1)	48	
	24	下腿部筋の伸長法実技(2)	49	
	25	前腕屈筋群・指屈筋伸長法実技(1)	50	
授業の方法	実技室においてベット使用で二人組			
テキスト/参考文献	NPO法人 日本調整療法テキストテクニカル編使用			
評価の方法や基準	実技試験により70点以上合格 認定			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	日本調整療法協会の理事長を務め、日本調整療法学院を設置、調整療法を学びたい人へ理論と実践を指導している			
実務経験の活かし方	理論と実践を交えながら、自分自身も体験しながら学ぶ			
履修上の注意事項				

授業科目	子どものための運動あそび		単位／時間	30時間
開講学科等	スポーツ健康学科		担当教員	宮本 忠男
授業の目的・テーマ	子どもの健全な成長と発達を促進するための運動遊びの理論と実践を学びます。運動遊びの計画、実施、評価方法を習得し、子どもの身体的・心理的発達に貢献するためのスキルを身に付けます			
授業の到達目標	子どもの発達段階に応じた運動遊びの重要性を理解する。 運動遊びの理論的背景と実践的手法を学ぶ。 子どもの体力・運動能力を向上させるための具体的なプログラムを作成する。 安全かつ楽しい運動遊びの環境を整える方法を理解する。 子どもの運動遊びを通じた社会的・心理的発達を支援するスキルを身に付ける。			
授業の計画	1	ガイダンス(到達目標・概要・授業計画について	26	プログラム評価 プログラムの効果と改善点
	2	子どもの発達段階と運動遊び 各発達段階に応じた運動遊び	27	成果の評価とフィードバックの収集
	3	運動遊びの理論 発達心理学、運動学習理論	28	次回イベントの改善計画
	4	運動遊びの計画 遊びの計画方法、目標設定	29	まとめと総復習 全体の振り返りと総復習
	5	運動遊びのコツ と カン	30	テスト
	6	基本的な運動遊び ランニング、ジャンプ、バランス遊び	31	
	7	運動遊びのバリエーション 多様な運動遊びの紹介	32	
	8	チームビルディングゲーム チームで行う運動遊び	33	
	9	創造的な運動遊び 創造力を育てる遊び	34	
	10	室内運動遊び 屋内での運動遊び	35	
	11	音楽とリズム運動 音楽を取り入れた運動遊び	36	
	12	遊具を使った運動遊び 様々な遊具の利用法	37	
	13	安全管理とリスク評価 運動遊びの安全対策	38	
	14	子どもの自己表現と運動遊び 自己表現を促す遊び	39	
	15	特別なニーズを持つ子どものための運動遊び 障がいを持つ子どもへの対応	40	
	16	親子で楽しむ運動遊び 親子の絆を深める遊び	41	
	17	運動遊びの評価方法 遊びの効果測定と評価	42	
	18	実技演習: 基本的な運動遊び 基本的な運動遊びの実践	43	
	19	実技演習: チームビルディングゲーム チームゲームの実践	44	
	20	実技演習: 創造的な運動遊び 創造的遊びの実践	45	
	21	実技演習: 音楽とリズム運動 音楽遊びの実践	46	
	22	実技演習: 親子で楽しむ運動遊び 親子活動の実践	47	
	23	プログラム作成: 実習準備 実習プログラムの作成	48	
	24	プログラム実施: 現場実習 1 作成したプログラムの実施	49	
	25	プログラム実施: 現場実習 2 作成したプログラムの実施	50	
授業の方法	講義・実技			
テキスト/参考文献	子どものやってみたいを育てる みやもっち体育			
評価の方法や基準	授業態度、テスト			
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	高知県k等行 委員会高等学校講師、学校法人しみず幼稚園職員、高知県教育委員会スポーツ健康課「あそびを通して健康づくり事業」講師など			
実務経験の活かし方	運動学の理論に基づき、様々な現場での映像を用いて学生の主体性を促しながら進める			
履修上の注意事項	筆記用具			

授業科目	総合型地域スポーツクラブ概論Ⅱ		単位／時間	30時間
開講学科等	スポーツ健康学科		担当教員	武市 光徳
授業の目的・テーマ	総合型地域スポーツクラブの運営と管理に焦点を当て、地域スポーツの振興と地域コミュニティへの貢献を学びます。具体的には、クラブの設立、運営方法、プログラムの企画・実施、財務管理、マーケティング、リーダーシップ、地域社会との連携などについて学びます。			
授業の到達目標	総合型地域スポーツクラブの意義と役割を理解する。 クラブ運営の基本的な原則と実践方法を学ぶ。 プログラムの企画・実施方法を習得する。 財務管理とマーケティングの基本を理解する。 地域社会との連携方法とコミュニティへの貢献を学ぶ。			
授業の計画	1	ガイダンス(到達目標・概要・授業計画について	26	家族向けスポーツクラブ 家族参加型プログラムの企
	2	クラブの意義と役割	27	デジタルツールの活用 テクノロジーの活用方法
	3	クラブの設立プロセス 設立手順、必要なリソース	28	まとめと総復習 全体の振り返りと総復習
	4	クラブ運営の基本原則 組織運営の基礎、ガバナンス	29	期末プレゼンテーション 学生によるプレゼンテーション
	5	プログラム企画の基礎 プログラムの企画、目標設定	30	テスト
	6	スポーツプログラムの設計 多様なプログラムの設計方法	31	
	7	プログラムの実施と評価 実施方法、評価手法	32	
	8	イベントの企画と運営 イベントの計画、運営手法	33	
	9	ボランティア管理 ボランティアの募集、育成、管理	34	
	10	会員管理システム 会員の登録、維持、関与促進	35	
	11	財務管理の基礎 予算作成、資金調達、会計管理	36	
	12	マーケティングとPR マーケティング戦略、広報活動	37	
	13	クラブのリーダーシップ リーダーシップの役割、スキル	38	
	14	コミュニティとの連携 地域社会との連携方法	39	
	15	法律と倫理 法律問題、倫理規範	40	
	16	リスク管理と安全対策 リスク評価、安全管理	41	
	17	ケーススタディ: 成功事例 成功したクラブの事例分析	42	
	18	ケーススタディ: 失敗事例 問題を抱えたクラブの事例分析	43	
	19	クラブの効果測定 効果測定の方法、指標設	44	
	20	持続可能なクラブ運営 持続可能性のための戦略	45	
	21	新しいクラブモデルの提案 イノベーションと新モデル	46	
	22	スポーツと健康促進 健康増進プログラムの企画	47	
	23	障がい者スポーツクラブ インクルーシブなクラブ運営	48	
	24	高齢者向けスポーツクラブ 高齢者向けプログラムの企画	49	
	25	子ども向けスポーツクラブ 子ども向けプログラムの企画	50	
授業の方法	講義・実技			
テキスト/参考文献	総合型地域スポーツクラブのつくりかた			
評価の方法や基準	授業態度、テスト			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	NPO法人まほろばクラブ南国 理事長			
実務経験の活かし方	総合型地域スポーツクラブの現状と課題、地域における役割などを高知県内の事例をもとに紹介すると共に、学生からのアイデアをイベントとして実施する			
履修上の注意事項	筆記用具			

授業科目	スポーツ行財政論		単位／時間	30時間
開講学科等	スポーツ健康学科		担当教員	武市 光徳
授業の目的・テーマ	スポーツ行政の理論と実践について学びます。スポーツ政策の形成と実施、スポーツ組織の運営、国際的なスポーツガバナンス、スポーツと社会との関係、スポーツ法、スポーツ倫理などについて深く理解し、スポーツ行政に関する総合的な知識を身につけます。			
授業の到達目標	スポーツ行政の基本概念と理論を理解する。 スポーツ政策の策定と実施プロセスを学ぶ。 スポーツ組織の運営とガバナンスに関する知識を習得する。 国際的なスポーツガバナンスの動向を理解する。 スポーツに関連する法律と倫理の問題を理解し、対応方法を学ぶ。			
授業の計画	1	ガイダンス(到達目標・概要・授業計画について	26	スポーツと地域振興 地域社会の振興、地域経済への
	2	スポーツ行政の基本概念	27	持続可能なスポーツ政策 持続可能性のための戦略
	3	スポーツ政策の理論と実践 スポーツ政策の形成プロセス、実施方法	28	まとめと総復習 全体の振り返りと総復習
	4	スポーツ行政の歴史 スポーツ行政の発展と歴史的背景	29	期末プレゼンテーション 学生によるプレゼンテーション
	5	スポーツ組織の構造 スポーツ組織の種類と構造	30	テスト
	6	スポーツガバナンス ガバナンスの概念、ベストプラクティス	31	
	7	プログラムの実施と評価 実施方法、評価手法国際スポーツ機関 IOC、FIFAなどの国際機関の役割と影響	32	
	8	地方自治体とスポーツ 地方スポーツ政策、地域スポーツの振興	33	
	9	スポーツイベントの運営 大規模スポーツイベントの企画と運営	34	
	10	スポーツと経済 スポーツ経済学の基本概念、経済効果	35	
	11	スポーツ法 スポーツに関連する法律、法的問題	36	
	12	スポーツ倫理とフェアプレイ 倫理問題、フェアプレイの重要性	37	
	13	スポーツとメディア メディアの役割、影響力、報道のあり方	38	
	14	スポーツと教育 スポーツ教育の役割、学校スポーツの重要性	39	
	15	スポーツと健康政策 健康増進政策、スポーツの役割	40	
	16	スポーツと社会的包摂 障がい者スポーツ、社会的包摂の取り組み	41	
	17	スポーツとジェンダー ジェンダー問題、女性スポーツの振興	42	
	18	スポーツと国際協力 スポーツを通じた国際協力、平和構築	43	
	19	スポーツとテクノロジー テクノロジーの影響、データ分析	44	
	20	スポーツと環境 環境保護と持続可能性、エコスポーツ	45	
	21	スポーツ政策の評価方法 政策評価の手法、効果測定	46	
	22	ケーススタディ: 成功事例 成功したスポーツ政策の事例分析	47	
	23	ケーススタディ: 失敗事例 問題を抱えたスポーツ政策の事例分析	48	
	24	スポーツマネジメントの基礎 マネジメント理論、組織運営	49	
	25	スポーツ資金の調達 資金調達方法、スポンサーシ	50	
授業の方法	講義・実技			
テキスト/参考文献	総合型地域スポーツクラブのつくりかた			
評価の方法や基準	授業態度、テスト			
実務経験のある教員による授業科目の場合、 右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	NPO法人まほろばクラブ南国 理事長 南国市スポーツ施設指定管理者 南国市スポーツ協会事務局			
実務経験の活かし方	指定管理を受けて施設の運営を行う上での行政との関りについて伝える			
履修上の注意事項	筆記用具			

授業科目	マーケティング手法の実際		単位／時間	30時間
開講学科等	スポーツ健康学科		担当教員	鴨井 啓
授業の目的・テーマ	スポーツ産業におけるマーケティングの基本概念と具体的な手法について学びます。スポーツマーケティングの理論、戦略、消費者行動、ブランド管理、デジタルマーケティング、スポンサーシップ、イベントマーケティングなど、幅広いテーマを取り扱い、実践的なスキルを習得します。			
授業の到達目標	マーケティングの基本概念と理論を理解する。 効果的なマーケティング戦略を立案できるようになる。 スポーツ消費者の行動を分析し、ターゲットマーケティングを行う能力を身につける。 ブランド管理とスポンサーシップの重要性を理解する。 デジタルマーケティングやイベントマーケティングの実践的手法を学ぶ。			
授業の計画	1	ガイダンス(到達目標・概要・授業計画について	26	新製品の開発と市場投入
	2	マーケティングの基本概念	27	社会的価値の提供、ソーシャルマーケティング戦略
	3	スポーツマーケティングの基礎理論	28	最新のマーケティングトレンドと技術
	4	市場分析、セグメンテーション、ターゲティング	29	まとめと総復習 全体の振り返りと総復習
	5	スポーツ消費者の行動分析、購買動機	30	テスト
	6	ブランド構築、ブランド価値の管理	31	
	7	製品開発、サービスの質管理	32	
	8	プロモーション手法、広告戦略	33	
	9	ソーシャルメディア、SEO、コンテンツマーケティング	34	
	10	スポンサーシップの獲得と管理	35	
	11	スポーツイベントの企画とプロモーション	36	
	12	市場調査の方法と実践	37	
	13	メディアの役割と影響力、メディア戦略	38	
	14	チケット戦略、ファンサービスの向上	39	
	15	収益モデル、マネタイズ手法	40	
	16	CSR活動、コミュニティエンゲージメント	41	
	17	グローバル市場戦略、文化差異の理解	42	
	18	倫理問題、法的規制	43	
	19	4P(製品、価格、場所、プロモーション)のバランス	44	
	20	データ駆動型マーケティング、ビッグデータの活用	45	
	21	CRMの重要性と実践方法	46	
	22	キャンペーン効果の測定と分析	47	
	23	インフルエンサーの活用、影響力の分析	48	
	24	小売業の戦略、販売チャネルの管理	49	
	25	PEST分析、競争環境の理解	50	
授業の方法	講義・実技			
テキスト/参考文献				
評価の方法や基準	授業態度、テスト			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	営業職の経験あり			
実務経験の活かし方	営業を行う際に必要な事前準備としてマーケティングの重要性を伝え、他社との違いを明らかにすることの大切さを伝える			
履修上の注意事項	筆記用具			

授業科目	組織開発論		単位／時間	30時間
開講学科等	スポーツ健康学科		担当教員	鴨井 啓
授業の目的・テーマ	スポーツ組織の開発と変革に関する理論と実践を学びます。組織の構造、文化、リーダーシップ、コミュニケーション、チームビルディング、変革プロセスなど、組織開発に関連する幅広いテーマを取り扱います。スポーツ組織の持続的発展を目指し、効果的な組織運営と改善方法を習得します。			
授業の到達目標	組織開発の基本概念と理論を理解する。 スポーツ組織の構造と文化の重要性を理解する。 効果的なリーダーシップとコミュニケーション戦略を学ぶ。 チームビルディングの手法を習得する。 組織変革のプロセスと方法を理解し、実践するスキルを身につける。			
授業の計画	1	ガイダンス(到達目標・概要・授業計画について)	26	クライシスマネジメント 組織の危機管理と対応
	2	組織開発の基本概念	27	スポーツマーケティング スポーツ組織のマーケティング
	3	組織理論の基礎 組織構造、組織行動の基本理論	28	スポーツと社会的責任 社会的責任とその実践
	4	組織文化の重要性 組織文化の定義、文化が与える影響	29	まとめと総復習 全体の振り返りと総復習
	5	組織構造の設計 効果的な組織構造の設計方法	30	期末試験 学期末の総合評価
	6	リーダーシップの役割 リーダーシップの理論と実践	31	
	7	コミュニケーション戦略 効果的なコミュニケーション手法	32	
	8	チームビルディング チーム形成の理論と実践	33	
	9	モチベーション理論 動機付けの理論と実践	34	
	10	変革マネジメント 組織変革の理論、変革プロセス	35	
	11	変革の抵抗と対応 変革への抵抗とその対策	36	
	12	イノベーションの推進 イノベーションの重要性と推進方法	37	
	13	組織開発の手法 組織開発の具体的手法とツール	38	
	14	パフォーマンス管理 パフォーマンス評価と管理	39	
	15	スポーツ組織の事例研究 成功したスポーツ組織の分析	40	
	16	組織開発の倫理 組織開発における倫理的問題	41	
	17	スポーツ組織のガバナンス ガバナンスの重要性と実践方法	42	
	18	組織開発の評価方法 組織開発の効果測定と評価手法	43	
	19	変革リーダーシップ 変革をリードするリーダーシップ	44	
	20	スポーツと持続可能性 持続可能な組織運営と環境配慮	45	
	21	デジタル変革とスポーツ デジタル技術の導入と変革	46	
	22	グローバル視点の組織開発 国際スポーツ組織の事例と分析	47	
	23	インクルージョンとダイバーシティ 包摂と多様性の推進	48	
	24	組織開発の未来 組織開発の未来展望	49	
	25	スポーツ組織のリスク管理 リスク評価と管理手法	50	
授業の方法	講義・実技			
テキスト/参考文献	総合型地域スポーツクラブのつくりかた			
評価の方法や基準	授業態度、テスト			
実務経験のある教員による授業科目の場合、右欄に○を入れ、実務経験と実務経験の活かし方を記載する				○
実務経験	コーチング協会 新人社員研修の講師			
実務経験の活かし方	これまでの実施経験を活かし現場で使えるプログラムや手法を伝え実践能力を身につけさせる			
履修上の注意事項	筆記用具			